

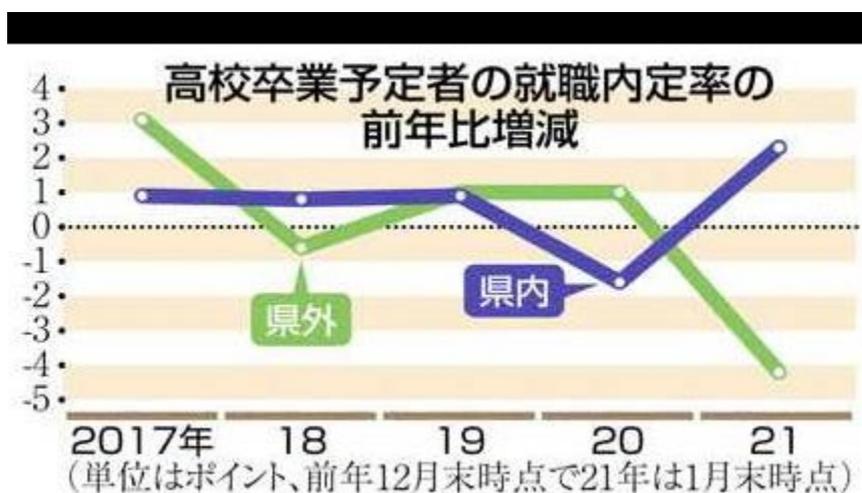
高卒就職希望は地元志向が上昇

コロナ禍で、就職の地元志向が強まっている可能性がある。文部科学省が国立、公立、私立高校を対象に調べている卒業予定者の就職内定状況（今年一月末現在）によると、県内の高校を三月に卒業予定で就職を希望する者のうち、県外就職希望の割合は前年の13%から11%に低下した。県内での就職希望の割合は87%から89%に上昇。内定者も同様の傾向で、県外での就職内定率は前年を4.2ポイント下回り、県内は2.3ポイント上回った。

近隣県では、岐阜の就職内定率も県外が1.7ポイント低下し、県内が1.1ポイント上昇したが、三重ではより地元志向が強い可能性が読み取れる。例年は近隣県から就業者が集まる愛知は、県外就職内定率が6.7ポイント上昇し、県外出身者が地元就職を希望するケースが増えたと推測される。

人口が減少し、限られた人手が都市部や大企業に流れる中、地方は優秀な人材を確保することが困難だったが、自治体や企業は改めて就業先としての三重の魅力に目を向けてもらえるよう、情報発信をしていく必要があるだろう。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子）



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2021年5月13日